Parent Teacher Association -NEWS- Vol.2

大人たち全員で、地域全体で、子どもたち全員をもっと愛して、見守り、育む。

平成28年６月
中牟田小学校ＰＴＡ
会長　西本　和則

雑草との戦い

５/９(日)。運動会を三週間後に控え、その練習も本格化する前に、地方委員会による奉仕作業が行われました。今回の担当地区は、朝日西、朝日東、松延新道、松延本村、吹田、赤坂の６地区で行って頂きました。運動場の側溝の蓋あげ、溝さらえは大変な重労働ですが、お父さんたちに力を発揮して頂きました。また、子どもたちの手には負えない、半年ほど伸び放題であった雑草も、草刈機のエンジン音と共に刈り取られていきました。また、コンクリートやアスファルトの脇から生えた生命力逞しい草たちではありましたがお母さんたちの前では成すすべがありませんでした。暑い日差しの中での作業でしたが、ご協力頂きました保護者の皆様、ありがとうございました。

花いっぱい

５/９(日)奉仕作業の後、環境委員の皆様が花の植え替え作業を行って下さいました。色取り取りの花が大小のプランターに植え替えられ、被爆二世のクスノキの周りや弥四郎像の前の花壇にも植えられました。子どもたちには、常に花のある環境の中でちいさな自然を感じながら、伸び伸びと育ってほしいと思います。

感謝と感動

５/30(月)。雨のために１日延期された108回目の運動会が開催されました。２週間、この日のために猛練習をしてきた子どもたち。どの種目でも子どもたちの元気な声とイキイキとした表情が溢れていました。青空の下で思いっきり、力の全てを出しきった子どもたちの笑顔が運動場を駆け抜ける爽やかな風のようでした。また、PTA種目のフォークダンスには多くの保護者の方々にご参加頂きましたこと、この場をお借りしてお礼申し上げます。今回の運動会を通して、私は様々な感動の場面に出会うことができました。暑さの中、一生懸命練習する子どもたち、愛情と忍耐を持って厳しく指導される先生たち、運動会決行をギリギリまで熟慮された先生方、前日に雨で濡れたグランドコンディションを整える先生たちの真摯な姿、運動会終了後、学校のテントや備品の片づけを率先して行ってくれる保護者達…。どれもが中牟田小学校の素敵な光景でした。

ボクらの味方

６/４(土)。今年最初の土曜授業。地域の「見守りネットワーク」の方々を弥四郎ホールに招き、防犯教室が行われました。子どもたちが被害に遭いそうになった時に逃げ込む場所「子ども110番の家」。現在82軒の登録があるそうです。『子どもはその時、どうしたらいいのか? 』とりあえず逃げる。防犯ブザーを鳴らす。万が一の時、子どもたちが行動出来るようにと、ランドセルを背負った荒木教頭と割烹着姿の庄司主幹教諭が実演を交えて分かりやすく説明して下さいました。「見守りネットワーク」の方々の存在そのものが防犯になり、地域の犯罪抑止力になっています。また、登校時のあいさつを通して、子どもたちのコミュニケーション能力の育成にも一役かって下さっています。万が一、校外でランドセルを背負っている大人を見かけた場合は、不審者と思われますのでご一報下さい。

残さず食べる

日本の食品廃棄量が世界でも1、2位を争うほど高いのをご存じでしょうか。政府広報によると、日本では年間1900万トンの食品廃棄物が出ており、これは世界の7000万人が１年間食べていける量だそうです。さらに民間の調査では、2700万トンという報告もあります。そのうち、まだ食べられるのに捨てられてしまう、いわゆる「食品ロス」が500万トンから900万トンもあると言われています。日本は食料の多くを海外からの輸入に頼っていますが、その半分近くを捨てている計算になるそうです。金額にすると、なんと111兆円!　自分のお金で買ったものだから、どう使ってもいいというものではありません。一人一人が気を付けていかなくてはならないと思います。もったいないお化けどころの話ではありません。

訃報

去る6月1日、歴代PTA会会長の八尋俊明氏がお亡くなりになりました。八尋氏は、昭和48年から昭和50年PTA副会長、昭和51年から昭和54年PTA会長を務められました。7年間の長きに渡りPTAに関わられ、中牟田小学校のためにご尽力されました。私の卒業時の会長も八尋氏でした。享年87歳(満85歳)でした。ご冥福をお祈りいたします。

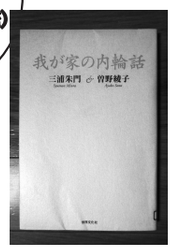
君との距離…

子どもの頃、テレビを虫眼鏡で覗くと、そこには無数の点がただ散らばっていて僕の期待を裏切った。それが光の三原色、赤青緑と知ったのは、それからずっと後のこと。夜空の星たちも同じ…。地球から眺めるから満天の星空になり、街の灯りも100万ドルの夜景となる。もっと近づけば、もっと綺麗に見えると思ったのに…。あまり近くに寄り過ぎると、全体像が見えてこない。離れすぎると見えないジレンマ…。テレビや絵画など物理的なものの距離は測りやすいが、人間関係となるとややこしい。それは身近な関係、親子や夫婦間においても当てはまる。社会心理学的には、パーソナル・スペースと言うらしい。これは、コミュニケーションをとる相手が自分に近づくことを許せる心理的な距離。心の距離を縮めるカギは、信頼関係。まずは相手を理解することからはじまり、相手が何を必要としていて、自分には何が出来るのか…。そうして培われた信頼関係も、距離の取り方を見誤ると、あっけなく崩壊してしまう砂の城のように脆いもの…。大切に大切に、僕は君との距離を縮めていく…。君の声が届く距離。僕の手が届く距離。ちなみに密接距離とは45センチ程で、男女間においてその距離は、二人の関係の深さにも比例する…。

ブックレビュー 読む(親も家族)

我が家の内輪話　三浦朱門・曽野綾子 著

世界文化社



両者言わずと知れた文壇の重鎮。この二人が夫婦であることをご存知だったろうか89歳と85歳の夫婦がそれぞれの見識、価値観から一つの話題について語り合う。小説の世界ではなく、自分たちの経験から人生や社会を語っています。私たちの年代からはまだ知ることも見ることも出来ない老後の世界を楽しみながら、前向きに生きている美しく自立した老人二人のお話しです。

６月 PTAスケジュール

- ■１日(水)・15日(水)朝のあいさつ運動　■10日(金)北筑後PTA人権教育研修会
- ■11日(土)歴代PTA会長会　■16日(木)１年生給食試食会　■16日(木)町P連総会
- ■24日(金)ふれあい参観　■26日(日)資源回収